



木木

千葉県 TEACCH プログラム研究会
2017年9月30日(土) 第91号

「森」字・佐々木正美
イラスト・竹蓋伸六

発行：千葉県TEACCHプログラム研究会広報部

事務局：千葉県発達障害者支援センターCAS内 TEL 043-227-8557

ホームページ：<http://www5e.biglobe.ne.jp/~teacch/site17.htm>

平成29年度 第2回 連続セミナー

「特性に基いた視覚支援」

～その構造化、見直しませんか？～

川崎医療福祉大学

諏訪利明氏



自閉症の人たちに「視覚支援は、常識」であるという言葉からお話が始まりました。そして、なぜそういう支援をするのか？
何のために？ 構造化以外のことはいけないのか？などと、問いかけながら『TEACCH』とは、自閉症の人たちの良さを引き出すものであり、教える（教育）ことの重要性について、お話していただきました。

新しいTEACCHの核となる価値

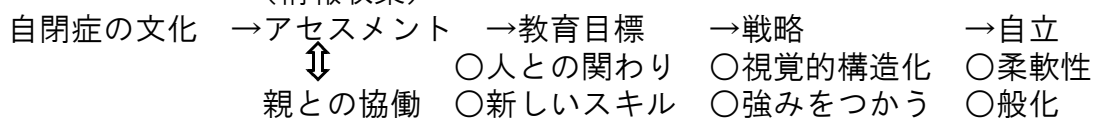
- 知識をシェアし、他者へのスキルレベルを高めていく。
- 他者への育成を広げることに全力をつくす。
- 家族を理解し、その進化をみつめる。
- 協働と協力の精神を理解していく。

理解の仕方を学ぶ。治すのではなく、“つなぐ”ことが大事である。

★スキルを教えること。学びやすい環境を作り出すこと。

★一人一人の違いにあわせた環境を作り出すこと。

(情報収集)



- ・自閉症からスタートすることを忘れてしまった実践 } ではなく、自閉症の人
- ・自閉症でなくすことをゴールにしてしまった実践 } に合わせて教える。

物理的構造化 ○場をつくる ○どこで、何を ○柔軟性はあるのか。
○監督するのに死角はないか。

ASDの人たちの違いは何か？ 本人のわかるものを利用して、個別化する。

ワークシステムの意味を理解することで、自立性は高まり、他の環境へ一般化する力を高める。伝えるべき4つの情報

- ・何をするのか？
- ・どのくらいの量か？
- ・どうやったら終わりか？
- ・次は何か？

視覚的構造化

- 視覚的組織化（整理統合）…教材の数を制限。容器に入れて整理。教材を固定。
- 視覚的指示 …文字にする。絵にする。ジグ（マッチング等）。完成品を指示。
- 視覚的明瞭化…色やハイライトを用いる。明確な終了の概念。指示や順序立て。

※構造化は、自立を高めることがねらいであり、そのねらいを達成するために、
『評価→目標→結果→構造化』が大事であることを教えていただきました。

「助け合って、社会は成り立っている。」という先生のお言葉のように、ASDの方々に視覚支援をすることが当たり前の日常になるようにしたいものです。



『彼らの苦しみをわかってあげて下さい。』佐々木先生の言葉が今でも忘れられません。

初めて、お話を聞いたのは23年前子どもが10歳。当時は、1時間に1回のパニックを起こし、どうしていいのかわからず、なんでこの子はこんなに大変なのか、そんな事ばかり考え、本人の苦しみ、ましてや彼にわかるように伝えるなど考えたこともありませんでした。そんな時、先生のお話を聞いて、これだと思いつぐにカードを作りました。一番困っていたのは、弟を叩くこと。本人が手を挙げている絵と弟が泣いている絵を書いて×と書きました。そして、本人が叩こうとして手を挙げた瞬間、そのカードをすかさず目の前に出した時、彼の手がピタッと止まったのです。初めて彼に伝わったと思える瞬間でした。まるで、水戸黄門の印籠だねと弟は笑いました。(今思えば×カードは作ってはいけないのですが)

それから、『彼にわかるように伝える』との先生の言葉をいつも考えながら、本人にわかるように絵と文字で説明しているうちにパニックがだんだん減ってきました。そして、T研で毎年、佐々木先生のお話を聞いて優しい気持ちになりながら、ずっと勉強してきました。あの時、佐々木先生のお話を聞いていなかったら、我が子と私はどうなっていたかわかりません。佐々木先生、本当にありがとうございました。

先日、眼科で視力検査をした時、たった一枚のCと書いたカードで練習していったら見事にマッチングさせながら、視力検査ができました。たった、一枚のカードの大きな力。佐々木先生に出会えて、TEACCHに出会えて感謝です。ありがとうございました。合掌。

藤枝富美代

佐々木先生、長い間、千葉県T研へのご指導、ご支援ありがとうございました。毎年、第一回目のセミナーの講師を引き受けて下さったことは、当会の考え方を明確に示す大切な機会となりました。また、そのことはスタッフはもとより会員の皆様に日頃のASDの方々への支援の方向性に自信を与えて下さいました。とりわけ、ASDの特性が広く世間に知れ渡っていなかった時代には、先生の講演の内容が私たちの心強い活動の支えになっていたことは間違いありません。これからも私たちの活動を見守りください。

長澤隆壽

いつも温かいまなざしの佐々木先生に、自閉症とかかわるすべての人がどんなに励まされたことでしょう。私も佐々木先生のお話を聞かたびに、日々のかかわりを振り返り、子どもたちのために明日からまた頑張ろうという気持ちをもつことができました。生涯にわたって自閉症の人が地域で幸せに暮らすために学校教育の役割は大きい、保護者や関係者との協働が大事等の教えをどれだけ実践できたか、反省することも多いのですが、先生に支えられて千葉県でも研究会ができ、続けることができたことで自閉症の人たちへの適切な支援は広がってきたと思います。先生に感謝の言葉をいくつ重ねても足りないです。本当にありがとうございました。

西村則子

「自閉症を理解せずに支援することは虐待に等しい。無理解で熱心な職員ほど自閉症の方々を混乱させてしまう。」という言葉がやはり一番印象深く残っています。多くの方が感じているのではないのでしょうか。自閉症の世界を理解することの大切さを教えていただきました。

余談ですが、平成10年にノースカロライナTEACCHプログラム視察研修に参加させていただき、初めて佐々木先生とお会いし10日間もご一緒させて頂きました。あれから、もう19年も経ってしまいましたが、その研修中の自己紹介の席で、私の居住地(香取市)から、「カトリヌですね。」と素敵な愛称を先生が付けて下さいました。おちゃめなその一言が、場を和ませてくれ素敵な会食になったことを忘れません。

高木美枝子



1970年生まれの長男が、3歳になっても1語もなく悩んでいた時に出会ったのが自閉症関連の本でした。なかでも佐々木先生の統合教育の本は普通学級に入学させたいと頑張る元気をもらいました。千葉T研で毎年お目にかかるようになり、当時のことを話した時、「**あれは間違いでしたね。**」と言われ、同時に「**親も共通の療育者**」と言われた時には、涙が流れました。佐々木先生ありがとうございました。

角口早苗

1992年11月(社)自閉症協会千葉県支部(当時)の20周年記念講演会で「自閉症の療育」の題でTEACCHについて詳しく講演されました。この時親も療育者であるとの言葉に深く感動しました。この時から私はTEACCHにのめりこみました。2002年「自閉症カンファレンスNIPPON」が開催され、私は「自閉症の人たちの権利擁護」と題して報告しました。その後、数回をのぞいて毎年参加しています。全国のTEACCHを学ぶ、療育者、医学関係者、親達と毎年1回お会いするのが私の楽しみです。このような機会を与えて下さった佐々木正美先生に深く感謝しています。

坂本秀美

佐々木先生がお亡くなりになって、改めて振り返ってみると、私にとっての佐々木先生はTEACCHそのものという気がします。

長男の障害がわかったのが1歳半。それからは悪戦苦闘の子育てでした。この子とどう接していけばいいか、何か良いアドバイスを受けたくて色々な療育機関を訪ねたこともありました。そんな中、主人がTEACCHに出会い、佐々木先生に出会いました。長男8歳の時、当時、仲町台診療所にいらした佐々木先生にお会いしました。そこには、いつも穏やかな先生がいらして、ほっとしたことを覚えています。

自閉症の我が子に、日常生活の中でどうわかりやすく伝えるか、具体的に示してくれるTEACCHはまさに目からうろこでした。もっと早く知っていたら、千葉県でも療育に取り入れてくれたら、ノースカロライナのように自閉症の人たちは当たり前で地域で暮らせるようになってほしい。子どもの将来に目指す道が見えた気がしました。

その次の年に、千葉県TEACCHプログラムの連続セミナーがはじまり、研究会になり今に至っています。佐々木先生には、始めた時からずっと、お世話になりました。

佐々木先生は、いつも第1回セミナーでTEACCHプログラムの本当の意味をわかりやすく、優しく、でも力強く話してくださり。一年に一度、また原点に立ち返らせてくださる気がしました。

嵐のような子育てでも子どもが成人して施設に通い始めたころには落ち着いてきて、安心して今日この頃。違うこだわりや困り事が起きてきました。決まった生活パターンの中で、わかっているような気がして言葉かけが多くなったりしていたのかもしれませんが。困り事が起きるといつかとなって強く怒ってしまったり、私のイライラがまた増えてきました。そんな時に佐々木先生のセミナーでお話された言葉を読み返してみました。

「**禁止ばかりが続くと、ご本人は怒りますよ。ご本人の要求が満たされていないのに厳しくしかるのはマイナス。行動にばかり目を奪われないで、どうしてそうなるかを支援する側が考えるんです。**」

「**苦手なことを努力させるより、得意なことを見つけてくれたり、協力、支援してくれる人、そこを教育してくれる人を彼らは求めているんです。**」

“**原点に返りなさい**”……いつでも自閉症の世界にこちらが近づくことの大切さを改めて思いました。まだまだ色々お話が聞きたかった。ありがとうございました。

佐々木先生の深い感謝とともに、ご冥福を心よりお祈りいたします。

大屋 千鶴

9年前の夏、NC視察研修で9日間佐々木先生をご一緒させていただきました。米国内を飛行機で移動する際、窓際だった先生は隣の乗客の方に、「よろしかったら窓際へどうぞ」とさりげなく声をかけて譲っていらっしゃいました。すごくスマートで紳士的で素敵でした。今でも鮮やかに思い出されます。自閉症支援について、先生からの金言はたくさんありますが、私にとっては先生の優しさも心に強く残っています。

與那嶺泰雄

数十年前、埼玉県の養護学校で教員をしていた時、佐々木先生は精神科の校医をしてくださいました。そのアドバイスのもと、交流教育を進めるために子どもたちを地域の学校に返す取り組みをしていました。歯に衣着せぬ言葉で、ぐいぐい引っ張ってくださいました。年月が過ぎ、「TEACCHハンドブック」が出版され、「佐々木先生の考え方も変わったんだな。」と受け止めていました。千葉で初めて講演を聞いた時、「**私の考えは間違っていました。おわびします。**」という趣旨のことをはっきりとおっしゃり、公の場で自分の非を認める姿に感動しました。その後の先生の言葉に感動し続けたのはもちろんのこと、皆さんと一緒にです。

菅谷恵子

佐々木正美先生は、1982年に初めてノースカロライナ大学のTEACCH部を訪問されて以来、日本におけるTEACCHの父として、単なるTEACCHの紹介に留まらず、自閉症の理解と支援について日本全国の親御さんや支援者に、多くのことを伝え続けて下さいました。「**自閉症の人たちを私たちに合わせるのではなく、私たちが、自閉症の人たちを理解し、自閉症の人に合わせ、歩みよらなくてはならない。**」と。支援や教育の前に、いかに理解が大切か、これはTEACCHの基本ですが、私たちが一人の人間として謙虚であり、平等であり、誠実であることの大切さを先生が教えて下さいました。私たちは、自閉症の人たちに学び、尊重すること—これは、どんな人に対してもつべき姿勢なのでしょう。

私たちのT研は、2002年12月佐々木先生のご講演「自閉症療育の世界的動向—TEACCHに学ぶ」から始まり、準備期間を経て2004年に設立され、現在に至っています。毎年、年度初めの総会後に先生のお話を聞き、初心に戻ることから研究会を始められて幸せでした。

皆様、先生にお目にかかれなくても、私たちは先生が書いて下さった広報誌の「森」という字を見て、どうぞ思い出して下さい。この「森」は、先生からのプレゼント、自閉症の支援のイメージをこの字にのせて私たちの研究会に送って下さったものです。先生の教えを胸に、目をつむって、森をイメージして下さい。いつも、“支援は視覚的に、見えるように”と言っている私ですが、実は見えないものが大切！

先生に感謝し、共に学び合い、尊重して歩んでいけたら…と思います。

安倍陽子



「熱心な無理解者が一番彼らを苦しめる。熱心に教育してくれるよりも熱心に彼らを理解してほしい。」

この言葉を聞いた時の衝撃と感動を忘れることができません。親身なご指導と、たくさんの温かいお言葉をありがとうございました。島田正仁

「自閉症のある人を支援するということは、『まずは、自閉症のある人の文化を理解すること』『次は、こちらから自閉症のある人に歩み寄ること』が大切である。」

というお言葉を肝に銘じ、自閉症のある人と関わっていきたくと考えています。「無理解で熱心な支援者」にならないように、今後も千葉TEACCHで学んでいきたいと改めて思います。本当にありがとうございました。山中暢巖

佐々木先生の包み込むような温かい語りかけに、教育者としての軸を確認し、子どもたちに向き合う元気をもらっていました。たくさんの教えをいただきましたが、その中でもTEACCHプログラムを学び始めた頃、「**理解のない支援はいらない**」というお話を聞き、その言葉を指導における1本目の軸として、その後も学び子どもたちに寄り添ってきました。たくさんの学びをありがとうございました。金坂京子

6年前にNC視察旅行に行った後、「これからも、勉強なさって自閉症の方達のためにがんばってくださいね。」そう優しくにこやかに励まして下さいました。今後も感謝しながら学び続けたいと思います。吉村奈津江

「自閉症の人が自閉症のまま幸福に暮らす。」というお話がありました。自分自身を振り返ると、こちらの価値観や幸せを子どもたちに押しつけていたことに気づき、恥ずかしくなりました。佐々木先生のご講演を聞いた時に、原点に返りました。私も、一支援者として、佐々木先生のような自閉症の方の代弁者になれるよう努めていきたいと思っています。本当にありがとうございました。小野塚早紀

「自閉症の文化」という言葉に感銘を受けました。先生が日本にTEACCHをご紹介下さり、TEACCHと出会えたことで、今の自分がある…私もその一人です。直接先生のお話を伺うことができた幸運と誇りを胸に、もっと自閉症を理解するための勉強に精進していきたいと思っています。佐々木先生、ありがとうございました。岡村絵美

平成29年度 TEACCHプログラム研究会 第4回連続セミナーのお知らせ

日時：10月28日(土) 13:30～16:30 (受付開始13:00)

内容：保護者からのメッセージ「大人になったASDの人の暮らし～共に生きる～」(仮題)

講師：山口 一美氏 高橋 和江氏 会場：きぼーる13階(会議室1、2、3)

編集後記：今週号は、佐々木先生に敬意を表し、親御さんやスタッフ、それぞれの思いを追悼特集として掲載しました。私も、佐々木先生の温かくそして厳しいお言葉を胸に、自閉症の方達とかかわっていきたくと思います。(島尾)